

令和元年度

授業改善推進プラン



文京区立本郷台中学校

第 1 学 年

教 科	① 基本方針・指導の在り方	② 生徒の現状・指導上の課題分析	③ 授業改善の視点	④ 授業改善の具体策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの観点において、基礎的基本的な学力の定着を図る。 ○生徒が意欲的、主体的に取り組むことができる言語活動を行う。 ○席書会や百人一首大会などを通して伝統文化に触れさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの生徒が真面目に授業に取り組んでいるが、一部で集中力が続かない生徒も見受けられる。 ○授業評価アンケートの結果から、授業に対して意欲的に取り組むことができていない生徒が2割いることが分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的に小テストを行い、基礎的な学力を一層定着させる。 ○生徒がより意欲的に授業に取り組むことができるような教材作りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元ごとに小テストを行い、漢字や語句の定着度を確認する。必要な場合は補習のプリントなどに取り組みさせる。 ○毎時間ペアワークやグループワークの時間を設け、一人一人の発言や発表の機会を増やす。
社 会	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本の定着を図るために、定期的に小テストを実施する。 ○提出物に定期的に取り組ませることで、家庭学習を促す。 ○意欲的な取り組みと、定着させた知識・技能の活用、思考・判断・表現力の向上を目的に、主体的・対話的な学習になるように指導を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業進度に適応できていない生徒が「わからない」を含めて5人おり、学力の定着に課題がある。 ○「課題をきちんとやって授業に臨んでいる」では「あまりあてはまらない」「わからない」が計6人おり、家庭学習への取り組みに課題がある。 ○意欲的な授業への取り組み（発言・活動など）に「あてはまらない」「あまりあてはまらない」が計10人おり、苦手意識から注意が散漫になっている。 <p>【授業評価アンケート】より</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本的な知識・技能の定着・向上のため、継続的に実施している小テストの方法を見直す。加えて、導入時の振り返りを工夫し、前時とのつながりを意識させる。 ○提出物への取り組みを徹底させる。 ○授業規律の確認を定期的におこなう。発言を引き出しやすいよう、習熟度に応じた大小の課題設定・発問を用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小テストの復習を課題にし、基礎的な知識の定着を促す。また、視覚的な指導になるよう、ICT機器を活用していく。 ○習熟度に応じた課題の作成や、授業内での発表に向け、家庭学習の充実と徹底を図る。 ○学期始めには授業規律を必ず確認する。意欲的な取り組みを向上させるため、社会科の見方・考え方にもとづく主体的な学習（「自説を唱える」「時代の特徴を説明する」など）を適宜取り入れる。
数 学	<ul style="list-style-type: none"> ○課題を頻繁に提示し、基礎・基本の定着を図るとともに家庭学習の習慣を身に付けさせる。また、課題にはていねいに取り組みせ、提出期日を必ず守る意識をもたせる。 ○単元テストを実施し、生徒の躓きを早期に把握し授業改善や教材工夫を図る。 ○少人数習熟度別授業の特性を生かし、生徒の理解度・定着度に応じた発問の仕方を工夫し、生徒の発言・発表の機会を多くする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ウォーキング（基礎）コースの中でも理解度や学習意欲に差があり、学習習慣が定着できていない生徒には課題を提出させるのに苦労しているが、おおむね課題に真面目に取り組んでいる生徒が多い。 ○「授業は事前の準備や工夫がされている」94.7%、「わかりやすく、よく考えさせてくれる」94.8%の生徒があてはまると回答しているので、習熟に応じた教材の工夫や授業展開ができた。また、「授業のスピードが自分の学力に合っている」は単元テストや定期考査の結果をふまえ、コースの見直しを行っているので、94.7%の生徒があてはまると回答している。 ○ランニング（発展）コースでは、意欲的に学習に取り組む生徒が多く、計算技能はおおむね習得しているが、数学的な見方・考え方を要する問題解決を苦手とする生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○習熟度に応じた課題に取り組ませ、個々の生徒の数学に対する関心・意欲を向上させるとともに基礎・基本の確かな力を定着する。 ○個に応じた指導を充実させる。 ○問題解決のためのグループ学習を取り入れ、小グループの中で発表する機会を設けることで、生徒が積極的に自らの考えを発言する姿勢を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題を計画的に示し、家庭学習を習慣化させる。課題にしっかり取り組めない生徒には放課後等を使った個別指導を行う。 ○単元テストや定期考査に向けての課題を準備し、基礎・基本の定着を図る。また、テストの結果を分析し、課題を克服するための個に応じた学習方法を助言し、支援する。 ○数学的な見方・考え方を要する問題に取り組む時間を増やし、自分の考え方を発表したり、互いに講評し合える機会を設ける。（扱う問題は習熟度に応じて工夫する。）

教科	① 基本方針・指導の在り方	② 生徒の現状・指導上の課題分析	③ 授業改善の視点	④ 授業改善の具体策
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒のさらなる興味・関心を喚起する。 ○単元ごと的小テストで基礎・基本の学習の定着をはかり、入試問題を取り入れた小テストで学力の向上を図る。 ○実験・観察のより高度な技能を身に付け、科学的な思考・判断・表現力を高める。 ○既習事項を活用しながら科学的な見方や考え方を養う課題を設定し、話し合いや発表など、生徒が主体的に取り組むことができる言語活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業評価アンケートでは、約98.2%の生徒がきちんと課題に取り組み、授業の記録をとっている、と回答した。 ○「わかりやすく教えてくれたり、よく考えさせてくれたりしている」と回答した生徒が98.2%であった。 ○全体的に基礎基本の定着は概ね良好であるが、一部に不十分な生徒が見受けられる。 ○演習問題に意欲的に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元ごとに基本的な知識の定着を確認したい。 ○根拠に基づいた科学的な議論を行い、理科の見方・考え方で課題解決に向かう力を養いたい。 ○ノート、発表、実験のレポート等を通して、より豊かな表現力を身に付けさせたい。 ○入試問題等の演習課題に取り組む時間を引き続き設定し、基礎基本の定着を図りながら、実践的な応用力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な知識の定着を図るために、小テストや単元ごとのまとめのテスト等を実施する。 ○既習事項を活用する応用レベルの演習の時間を充実させ、活用力を向上させる。 ○実験やグループ活動、演習に取り組む時間を通して、対話的な学習活動を行うことで、生徒が理科の見方・考え方を活用しやすい授業を展開する。 ○学び合い、教え合う活動を通して、自分の理解の度合いを把握しながら、知識の定着を図っていく。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ○英語でコミュニケーションを図ることへの関心を高める。 ○語句や文を、英語らしい音で発話する方法を身に付けさせ、英語の文が表す意味や構造を理解させる。 ○コミュニケーション活動をとおして、4技能(聞、話、読、書)の基礎力を身に付けさせる。 ○授業の復習を中心に、音読筆写、ワークブック等の家庭学習課題を日常的に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○入学前に、英語を話すこと、また文構造、語彙に関する知識を得ている生徒が多い。 ○「話すこと」など、音声を伴う活動に関心が高く、意欲的に参加する。 ○音声で語句や文を再生することができても、「書くこと」の活動では学習経験や学力の差が顕著になる。 ○多くの生徒が、音読筆写、ワークブックの課題をていねいに取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○語句、文の発音、音読をくり返し行い、個別で発話する機会を設定する。 ○文構造を整理し、語彙の基礎的な知識の習得を目指し、コミュニケーション活動につなげる。 ○単元ごとに2～3文レベルのスピーキング活動を行い、学期に1回のパフォーマンス・テストを実施する。 ○授業での音声練習を踏まえ、英文筆写をさせる。つながりのあるまとまった文を書く練習をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○語句の発音練習を行い、音読は全体練習から個別練習(個々の発話)につなげる。 ○単元ごとに文構造や語彙の基礎的な知識の整理、拡充につながる教材を作成する。 ○教科書本文の再生(リプロダクション)を行い、暗唱から言語活動へつなげる。 ○授業で音読を徹底的に行い、音声の練習を踏まえて音読筆写の家庭学習課題を提示する。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○パートリーダーの育成を図ることや、グループ・ペア活動を通して、主体的な学習ができるようにする。 ○表現「歌唱、器楽、創作」と鑑賞領域を関連付けて指導する。 ○合唱コンクールなどの行事や授業内発表など、一つ一つの学習項目に目標をもたせ、達成感を得られるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌唱においては、姿勢などに気を付け、全体的に積極的に取り組んでいる。男子は変声前の生徒が多いが、女声パートなど自分の歌いやすい音域で力を発揮している。 ○器楽ではアルトリコーダーの基礎的個人小テストによく取り組んでいる。 ○音符や音楽記号などの知識理解については、個人差がある。期末考査や記譜を必要とする創作、鑑賞の「言葉による批評」にそれが表れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発声やアルトリコーダーの運指、音楽理論などの基本的な知識技能の定着を図る。 ○それぞれの生徒が自分の思いや意図をもって表現できるように曲想について考えたり、話し合ったりする時間を増やす。 ○グループ学習やペア学習を通して主体的な学習がスムーズにできるよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な知識や技能を、履修する楽曲の表現活動の中で確認させ、定着させる。足りない部分は個別指導を行う。 ○興味関心や達成感をもてるような楽曲教材の精選を行う。また話し合いがしやすい授業をするために、ICT機器を使用して視覚的に共有できるようにする。 ○合唱指導については個人達成カードを使用する。器楽のグループ学習では、生徒同士の相互評価を行う。

教科	① 基本方針・指導の在り方	② 生徒の現状・指導上の課題分析	③ 授業改善の視点	④ 授業改善の具体策
美術	<ul style="list-style-type: none"> ○自由に伸び伸びと構想を練り、楽しく活動させる。 ○実技を通して、基礎的・基本的な模写の能力の定着を図る。 ○表現活動の基礎・基本となる色彩の習得を図り、自ら制作活動ができるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○工夫しながら作業に取り組む生徒が多く個性豊かな作品が見られ、課題の方向性に従い、良い傾向が見受けられる。 ○多くの生徒が意欲的に作業に取り組んでいる。 ○作業だけでなく色彩の作品を積極的に発表する生徒が多く、方法や用語もしっかり覚える生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループ学習をとおして友人との意見交換や制作のアイデアを考える時間を設ける。 ○基本的な描写力や、造形力を身に付ける学習を行っていく。 ○基本的な描写力や造形力を身に付ける学習を行っていく。美術作品を鑑賞し、自分の考えをしっかりとらせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達との話し合いから制作する作品からどのようなことが学べるかを明確にさせる。 ○制作手順をプリントやアクティブボード等を使用し、細かく指導していく。 ○アクティブボードで様々な美術作品を鑑賞させることで、描写力や造形力をつけさせる。
保健体育男子	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の規律（集団行動）を徹底し、安全に配慮をする。 ○運動量を十分に確保し、基礎体力・基本技能を身につける。 ○全体指導と併せて技能別での活動を取り入れ、TT体制で指導していく。 ○グループ活動で学び合い、互いのよさをみつけられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの生徒が授業の規律を守り、積極的に取り組んでいる。 ○基礎体力・基本技能が身につけていない生徒が多い。 ○運動に関する知識が低い生徒が多い。 ○口頭での指示を理解することが難しい生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時間、ランニングや補強運動を継続的に実施し、体力の向上を図る。 ○全体指導で、運動量を確保し、基礎体力・基本技能の定着を図る。 ○模範を示したり学習カード等を活用したりして、技能のポイントを説明し理解させる。 ○視覚的にアプローチできるように教材を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元に応じて、授業の導入で、筋力・体幹トレーニング、柔軟運動などを実施する。 ○全体指導を行いながら、体力や技能に応じた指導をTTで徹底する。 ○学習カードやタブレットを活用し、自己の課題を発見させ、解決できるよう練習方法などを助言、指導する。 ○掲示物やアクティブボードを有効に活用する。
保健体育女子	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な運動能力と体力の向上を図る。 ○個々の能力に合わせた目標を設定し、積極的に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体力及び基礎的・基本的な運動能力が身につけていない生徒が多い。 ○声を出し、元気に活動する生徒が多い。しかし、教師の説明を自己解釈して行動してしまう場面も見られる。また、運動が苦手な生徒は積極性に欠ける場面が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○準備運動の中に補強トレーニングや柔軟運動を取り入れ、体力の向上を図りながら運動能力の定着を目指す。 ○安全のためにも、説明は最後までしっかりと聞く姿勢を取らせる。さらに、TTを活用し、個別指導を活かしながら助言や支援を行い、積極的に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習ノートやカードを活用し、自己の課題を発見させ、解決できるよう練習方法などを助言、指導する。また、単元ごとに技能テストを行い、どの程度身につけているかを確認しながら助言する。 ○TT相互で打ち合わせを密にし、習熟度に応じた個別指導を徹底するとともに、できたことの喜びがわかるような声掛けを常に行う。

教科	① 基本方針・指導の在り方	② 生徒の現状・指導上の課題分析	③ 授業改善の視点	④ 授業改善の具体策
技 術 ・ 家 庭	<p><技術分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る。 ○協働学習の機会を設けて、主体的対話的な学習を進める。 ○木製品の製作では、工具の仕組みと効果的な使用方法を理解させ、安全で丁寧な作業を行わせる。 <p><家庭分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ○復習や反復練習を行い、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る。 ○習得した知識や技術を家庭生活中で活かせるような課題を取り入れ、技能の向上を図る。 	<p><技術分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ○厚紙を使って作品の試作をすることで作品のイメージをもたせた後に、けがき作業を行わせることができた。 ○実習(木材加工)において意欲的に作業を進めることができる生徒と、なかなか進めることができない生徒との差がある。 ○両刃のこぎり、差し金の正しい使い方をしていない生徒がいる。 <p><家庭分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な知識の習得ができていない生徒は多いが、発展的な課題や応用力を求められる課題には苦手意識をもつ生徒が少なくない。 ○習得した知識や技術を実生活中で活かす機会をもとめようとする生徒が少ない。 	<p><技術分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ○作業記録表の記入を通して、現在の作業内容と課題を確認させる。 ○グループで学習をすることで、課題を発見し、解決するために支援し合い、作業を効率化させる。 ○工具の仕組みと効果的な使用方法の関係を理解させる。 <p><家庭分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な知識や技術をしっかり定着させ、応用・発展できる能力を養う。 ○日常生活の中で、学習した内容を実践できる課題を多く設定するように工夫する。 	<p><技術分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ○実習では、進度に応じた支援をする。製作時間が足りない生徒には補修時間を設けて指導をしていく。 ○同じ作品を製作する生徒で班を作り、解決する問題を共有させながら作業に取り組ませていく。 ○動画や作業を実際に見せることで安全指導を確実に行う。 <p><家庭分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートや家庭ノートの課題にそれぞれの考えを整理し、発表したり話し合う機会を増やし、創造力や発想力を広げられる指導をする。 ○家庭で行えるボタンつけ、アイロンがけ、洗濯実習、調理などの課題を取り入れていく。

第 2 学 年

教 科	⑤ 基本方針・指導の在り方	⑥ 生徒の現状・指導上の課題分析	⑦ 授業改善の視点	⑧ 授業改善の具体策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的に小テストを実施し、課題に取り組ませることで、漢字の知識や語彙力を増やし、基礎学力の向上を図る。 ○生徒が主体的に取り組むことができる言語活動を行う。「書くこと」「話すこと」の活動を増やし、コミュニケーション力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業評価アンケートでは、約9割の生徒がきちんと課題に取り組む、授業の記録をとっている、と回答した。 ○「授業中に自ら進んで挙手、発言等、意欲的に取り組んでいるか」という項目において、2割の生徒があてはまっていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発言する機会を増やし、誰でも発言しやすい授業の雰囲気を作る。 ○教科書の文章を読むだけでなく、発展的な活動を行い、授業に主体的に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎回の授業でペアワークやグループワークを取り入れ、発言をする機会を増やす。 ○教科書に載っている文章を読んで終わりにするのではなく、単元の最後には関係するテーマで議論したり、読みを深めたりする活動を取り入れる。
社 会	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎基本を定着させるために、定期的に小テストを実施する。 ○思考・判断・表現を向上させるために、少人数によるグループワークを導入する。 ○定期的に提出物を課すことで、家庭学習を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業評価アンケートより、授業準備などがきちんとできている生徒は75%を超えている。授業者から見ても、授業規律はおおむね良好である。しかし、発言などの積極性はアンケートでも「あまりあてはまらない」が20%近くおり、課題として挙げられる。 ○東京都の学力調査より、平均を3.4%上回るが、思考・判断・表現が0.1%上回るにすぎず、課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○少人数によるグループワークで積極的に発言できる機会を増やす。 ○思考・判断・表現を高めるために言語活動を通した「学び合い」を重視していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループの中での発言する生徒に偏りがある。机間指導で、様々な生徒が発言できるよう指導・助言する。 ○思考・判断・表現に課題があるので、グループワークで意見を共有する前に個人で考える時間を設ける。また、「学び合い」を促すことで学力の高い生徒の思考力も言語活動を通して高める。
数 学	<ul style="list-style-type: none"> ○数学の学習に対して問題解決ができる楽しさを経験させる。 ○習熟度別少人数制授業、基礎コースでは、公式や言語、計算処理、図形の性質の理解等の定着を図る。発展コースでは、さらに、発展的な問題の解決への取り組みを行う。また、両コースとも、個々の理解度に応じて徐々に難易度の高い問題に移行する。 ○自分の意見、問題の解決方法を説明する言語活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業評価アンケートでは、9割近くの生徒が指示された課題に取り組む、授業の記録をとっている、と回答し、意欲をもって学習活動を行っている。 ○全体的に基礎基本の定着は概ね良好であるが、一部、計算や公式の認識が不十分な生徒が見受けられる。また、数学的な思考を要する問題の解決を苦手とする生徒が多い。 ○多くの生徒が挙手をし、自分の考えを発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個々の生徒の学習意欲、課題を解決する意識を向上させる。 ○公式をはじめとする知識の定着、計算力などの技能の定着を図る。数学的な思考を要する問題を解決する思考力、判断力を養う。 ○他者の意見を聴き、理解し、自分なりに分析し、その意見を発表する力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元、章、各授業における習得を目指す項目(ねらい)を明確にし目的意識をもたせて学習活動に取り組ませる。また、課題を定期的に出題し、点検することで継続した学習態度を育成する。 ○難易度別のワークシートによる学習を実施し、段階をおって学力の向上を目指す。確認テストを実施し、各自の課題の把握をさせ、テスト直しの提出を通してその解決を図る。 ○協力して問題の解決に取り組むための教え合いの時間を作り、他者への解説等の取り組みを行う。

教科	⑤ 基本方針・指導の在り方	⑥ 生徒の現状・指導上の課題分析	⑦ 授業改善の視点	⑧ 授業改善の具体策
理科	<p>○生徒のさらなる興味・関心を喚起する。</p> <p>○小テストや課題・単元ごとのテストを定期的に行い、基礎学力の向上を図る。</p> <p>○既習事項を活用し、科学的な見方や考え方を養う課題を設定し、話し合いや発表など、生徒が主体的に取り組むことができる言語活動を行う。</p> <p>○基本的な実験器具の使い方に習熟させ、班で協力するとともに、見通しを持ちながら実験に取り組む力の向上を図る。</p>	<p>○授業評価アンケートでは、約86.7%の生徒がきちんと課題に取り組み、100%の生徒が授業の記録をとっていると回答した。</p> <p>○「授業中に自ら進んで挙手、発言等、意欲的に取り組んでいるか」という項目において、2割の生徒があてはまっていなかった。</p> <p>○都の学力調査の結果から、規則性・関係性を見出して計算する問題や、規則性に基づいて結果や原因を推測する問題への正答率が低いことが分かった。</p> <p>○全体的に基礎基本の定着は概ね良好であるが、一部に不十分な生徒が見受けられる。</p>	<p>○規則性・関係性を見出させる力を向上させ、規則性に基づいて数的に思考する学習活動の機会を増やしたい。</p> <p>○現象を理解するために必要な知識を関係性とともに理解する力を養いたい。</p> <p>○現象を、具体的な物質や物体の変化として理解する視点を獲得させたい。</p> <p>○結果には原因があることを理解させ、結果から原因や経過を推測する力を身に付けさせたい。</p> <p>○継続して基本的な知識の定着を図り、対話的な学習を行う土台をつくりたい。</p>	<p>○シンキングツールを用い、規則性・関係性を見出させる対話的な学習活動を行う。また、規則性に基づき数的に思考する学習活動を充実させる。</p> <p>○現象をモデル化して提示するとともに、モデルを使って説明する学習活動を行う。</p> <p>○シンキングツールを用いて、因果関係や整理する学習活動を行う。</p> <p>○対話的な学習を行う土台をつくり、基本的な知識の定着を図るための5問テストを毎時間実施する。</p>
英語	<p>○少人数熟度別授業の利点を生かし、基礎コースは基礎力の充実を図り、基本的な事柄を描写できるようにさせる。発展コースでは、それに自分や人の意見を加えて描写できるようにさせる。</p> <p>○様々な会話場面を設定し、実践的即効的なコミュニケーション能力を育成する。</p>	<p>○授業においては、ペアワークや発表活動によく取り組み、発言にも積極的な生徒が多い。</p> <p>○全体的に基礎力の底上げ、語彙力の強化が必要である。都学力調査の結果を見ると、特に自分の考えを文章化するなど、表現の能力が身に付いていない点が課題である。</p>	<p>○全体的な基礎学力を向上させる。基礎語彙力・基礎文法力に加え、音読指導に重点を置き指導に当たる。基礎学力の向上に当たっては、1年次の復習も適宜取り入れていく必要がある。</p> <p>○自分の行動や簡単な意見を文章化し、発表活動を充実させることで表現の能力の充実を図る。</p>	<p>○単元毎の語彙力テスト・文法テスト、そして音読テストを実施する。特に音読テストに関してはALTと協力しながら取り組む。1年次の復習については、授業の始めを利用してミニテストを実施する。</p> <p>○様々な場面を設定し、それに見合った英語を考えさせ文章化させることで表現力を充実させる。</p>
音楽	<p>○パート練習やグループ・ペア活動において、曲にふさわしい表現を創意工夫し、全員が主体的に意欲をもって学習できるようにする。</p> <p>○表現「歌唱、器楽、創作」と鑑賞領域を関連付けて指導する。</p> <p>○合唱コンクールなどの行事や授業内発表などで目標をもたせ、一人一人が達成感を得られるように指導する。</p>	<p>○歌唱においては、全体的に積極的に取り組んでいるが、女子の一部に声が響かせられない生徒がいる。</p> <p>○器楽ではアルトリコーダーの二重奏に取り組み意欲的に思いや意図をもって演奏できる生徒が多かったが、一部苦手意識をもっている生徒もいた。</p> <p>○音符や音楽記号などの知識理解については、昨年より期末考査の平均点が上昇し、定着してきていることがうかがえる。</p>	<p>○発声やアルトリコーダーの運指、調と音階などの音楽理論の基本的な知識技能のさらなる定着を図る。</p> <p>○自分の思いや意図をもって表現できるように音色や曲想について考えたり、話し合ったりする時間を増やす。</p> <p>○グループ学習（パート練習）やペア学習を通して主体的に学習できるよう指導を行う。</p>	<p>○ペアワークや個別指導により、基本的な知識やリコーダー演奏など技能の弱点を克服させる。また、息の使い方を定着させるためにブレストレーニングを取り入れる。</p> <p>○話し合いがしやすい授業をするために、ICT機器を使用して視覚的に共有できるようにする。</p> <p>○合唱指導については達成カードを使用し個人の理解度を把握する。器楽のグループ学習では、生徒同士の相互評価を行う。</p>

教科	⑤ 基本方針・指導の在り方	⑥ 生徒の現状・指導上の課題分析	⑦ 授業改善の視点	⑧ 授業改善の具体策
美術	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人一人が制作を通して心豊かに美術とかかわり、美術を愛好する心情を育み、創造活動に関心をもたせる。 ○実技を通して、基礎的・基本的な能力の定着を図る。 ○表現活動の基礎・基本となるデザインの習得を図り、自ら制作活動ができるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に取り組んでいる生徒が多く、生徒作品から工夫している点が多く見受けられる。 ○1年次に学習した技術を十分習得している生徒と不十分な生徒が見られる。 ○課題のテーマにあったアイデアがなかなか思いつかず、作業がすすまない生徒が見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自らの課題を認識させ一つの作品を丁寧に作らせる。 ○課題の展開の際、技法について手本を見せながら説明し、過去に行った技法の場合でも手本を見せながら復習し指導を行う。 ○参考作品やアイデアの元となる資料を多く与え表現の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料や手本を示しながら、机間指導を行う。 ○個々の技能の能力にあわせて資料や手本を示しながら机間指導を行う。 ○アクティブボードやプリントによる資料を充実させ、表現力をみがかせる。
保健体育男子	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の規律（集団行動）を徹底し、安全に配慮をする。 ○運動量を十分に確保し、基礎体力・基本技能の向上を図る。 ○個々に合った課題解決ができるようTT体制で連携していく。 ○グループ活動を取り入れ、主体的に取り組めるよう指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動が得意・不得意に関わらず、意欲的に取り組む姿勢が多く見られる。 ○全体的に体力が低く、個々の運動技能の差が大きい。 ○運動に関する知識が低い生徒が多い。 ○グループ活動で互いに声をかけ、励まし合うことができる生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時間、ランニングや補強運動を継続的に実施し、体力の向上を図る。 ○全体指導で運動量を確保し、体力を高めながら、TTを活用して、技能別に対応していき、全員が技能向上を図る。 ○視覚教材を活用して、知識の定着を図る。 ○グループ活動を取り入れていき、学び合いの中で、理解を深めさせ、技能の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元に応じて、授業の導入で、筋力・体幹トレーニング、柔軟運動などを実施する。 ○TT相互での打ち合わせを密にし、個々の習熟度や技能に応じた指導を徹底する。 ○アクティブボードや学習カードを活用し、各技能のポイント等を説明する。 ○グループ活動で、学習カードやタブレットを活用し、自他の課題を発見させ、解決できるような取り組みについて指導・助言する。
保健体育女子	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な運動能力を高めるために、運動を工夫しながら反復した指導を行う。 ○個々の能力に合った学習を工夫し、意欲的に運動できる場面を増やすとともに、体力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な運動能力が身につけていない生徒が多い。 ○どの種目も真面目に取り組む姿勢が見られる。また、運動が苦手な生徒の中には、積極性に欠ける場面がやや多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己の課題を認識させ、体力の向上を図るために、個々の目標を設定させる。 ○TTを活用して個々の能力に合った学習を工夫し、できる喜びがわかるような声掛けを行うことにより意欲を育てていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習ノートやカードを活用して、課題の発見と解決を促し、運動の効果を高められるようにする。 ○TT相互で話し合いながら、個別指導を徹底するとともに、単元ごとに技能テストを行い、一人一人の能力を確認しながら助言し、意欲を引き出していく。

教科	⑤ 基本方針・指導の在り方	⑥ 生徒の現状・指導上の課題分析	⑦ 授業改善の視点	⑧ 授業改善の具体策
技 術 ・ 家 庭	<p><技術分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る。 ○協働学習の機会を設けて、主体的対話的な学習を進める。 ○エネルギー変換についての実習では、工具の取り扱い方を理解させ、安全で効率的な作業を行わせる。 <p><家庭分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ○実践的・体験的学習活動を増やし、技能の向上を図る。 ○日常の家庭生活と結びつけ、知識や技術を習得させる。 ○夏休み、冬休みに調理実践の課題を設定し、調理に関する技術の定着を図る。 	<p><技術分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ○作品製作（ラジオの製作）、観察記録（ベビーリーフの栽培）に興味をもって取り組む生徒が多い。 ○一つの課題に時間をかけ過ぎる傾向がある生徒がいる。 ○はんだごてを安全に使用している生徒が多い。 <p><家庭分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ○成長期の食生活に関心を持ち、意欲をもって授業を受ける生徒が多い。 ○調理実習に興味をもち意欲的に取り組む生徒が多い。 ○調理など作業経験の違いによる技術差があり、到達度に差が出てしまう。 	<p><技術分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ○実習の導入では、学習内容と安全指導について、わかりやすい説明を行う。 ○グループで学習することで、問題解決のためお互いに支援し合い、作業を効率化させる。 ○工具を安全に使うために工具の仕組みと使用方法の関係を理解させる。 <p><家庭分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ○簡単な食材を用いて食品の扱い方になれさせる。 ○身近な食生活の課題を設定し、習得した知識や技術を生活の中で活かし定着を図る。 ○長期休業中などを利用して、献立作成や調理に挑戦させ作業経験の場を増やし技術の向上を図る。 	<p><技術分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ○実習に関する基礎知識を定着させるために、動画、ワークシート等を活用していく。 ○4、5人で班を作り、解決する問題を共有させながら作業に取り組ませていく。 ○動画や作業を実際に見せることで安全指導を確実に行う。 <p><家庭分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ○アクティブボードを活用し動画で調理手順や作業内容を説明し基礎技術の定着を図る。 ○実習時に小グループや個別指導を行い、技術力の差をうめる指導をする。 ○調理器具などの扱いに慣れるために、長期休業中の宿題として、エコクッキングによるお弁当作りに取り組ませる。

第 3 学 年

教 科	⑨ 基本方針・指導の在り方	⑩ 生徒の現状・指導上の課題分析	⑪ 授業改善の視点	⑫ 授業改善の具体策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○目標を明確にして主体的に学習する指導を行い、基礎的・基本的な学力の定着を図る。 ○進路を見据えて、生きる力に直結する「話すこと」「書くこと」の指導を重点的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業評価アンケートの結果から、準備をして授業に臨み、課題に対する取り組みも良いことがわかるが、「自ら進んで挙手・発言…」の項目の数値がやや低いので、改善が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に「話すこと」と「書くこと」に関する学力の育成を図り、「考える力」を伸ばす指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時間の最初に、新聞記事についての意見発表の時間を設定し、話す力を伸ばす。 ○週 1 回、入試問題や生活をふり返る課題作文に取り組みせ、書く力を伸ばす。
社 会	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎基本の定着を図るため、定期的に小テストを実施する。 ○思考・判断・表現力を向上させるため、少人数グループによるアクティブラーニングを活用する。 ○体験的学習として、政党や株式会社をつくり、世界各国の外交などをシミュレーションさせる。 ○社会的事象への関心と自らの意見をもたせるために「意見論述ノート」をつくらせる。プリントに毎回、論述用のテーマを一つ掲載する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業評価アンケートより、授業準備などができていると答えた生徒は 75%を超えている。授業者から見ても授業規律はおおむね良好である。しかし、発言などの積極性はアンケートでも「あまりあてはまらない」「あてはまらない」が 10%を超えていることが課題として挙げられる。 ○基本的に生徒は意欲的に授業に取り組んでいるが、グループワークで自らの考えを表現することが苦手な生徒が少なくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○少人数によるグループワークで積極的に発言できる機会を増やす。 ○思考・判断・表現を高めるために言語活動を通した「学び合い」を重視していく。 ○自らの意見を考え、深め、表現する機会を設ける。さらに、社会的な現象や話題のニュースを扱うことで興味・関心も深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループワークの中で発言する生徒に偏りがある。机間指導で、様々な生徒が発言できるように指導・助言する。 ○思考・判断・表現に課題があるので、グループワークで意見を共有する前に個人で考える時間を設ける。また、「学び合い」を促すことで学力の高い生徒の思考力も言語活動を通して高める。 ○話題のニュースなどをテーマに自らの意見をまとめる「論述ノート」を作成し、関心・意欲・態度や思考・判断・表現を高める。
数 学	<ul style="list-style-type: none"> ○習熟度に応じた授業を実践する。 (基礎) 例題を選別し、基礎基本の徹底を図る。 (発展) 応用問題へのチャレンジを適宜行い、数学的な見方や考え方を重点的に養う。 (共通) 毎回多くの生徒に発問し、生徒の理解度を図りながら、言語活動の充実を図る。途中式をきちんと書かせ、根拠を明確にして答えさせる。 ○単元に応じて、課題解決型学習を取り入れる。 	<p>【授業評価アンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「授業の進度が自分に合う」の割合が 87%、「事前の準備や工夫がされ分かりやすい授業」の割合が 95%となり、習熟に応じた授業を実践できている。また、毎回多くの生徒に発問し、根拠を明確にして説明する時間を多くとっている。しかし、ワークや授業ノートを点検すると、問題を解く過程を簡略化して書く生徒が一部見られる。 ○基礎基本が備わっていない生徒は、課題解決型学習に躓きが多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○答えを出す過程を評価する授業を実践する。また、継続して言語活動を重視した授業を実践する。 ○課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を習得させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ノートに根拠をきちんと書かせる時間を多くとる。また、試験後のやり直しレポートを課し、途中の式や考え方をまとめさせる機会をつくり、表現力を養う。 ○単元の終わりに、基本事項および基本例題をまとめたものをノートに貼り、振り返りながら課題解決学習に取り組ませる。

教科	⑨ 基本方針・指導の在り方	⑩ 生徒の現状・指導上の課題分析	⑪ 授業改善の視点	⑫ 授業改善の具体策
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒のさらなる興味・関心を喚起する。 ○単元ごとのテストで基礎・基本の学習の定着をはかり、入試問題を取り入れた小テストで学力の向上を図る。 ○実験・観察のより高度な技能を身につけ、科学的な思考・判断・表現力を高める。 ○既習事項を活用しながら科学的な見方や考え方を養う課題を設定し、話し合いや発表など、生徒が主体的に取り組むことができる言語活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業評価アンケートでは、約9割の生徒がきちんと課題に取り組み、授業の記録をとっている、と回答した。 ○「わかりやすく教えてくれたり、よく考えさせてくれたりしている」と回答した生徒が98.5%であった。 ○全体的に基礎基本の定着は概ね良好であるが、一部に不十分な生徒が見受けられる。 ○既習事項を活用する応用レベルの演習の時間を設けているが、意欲的に学習している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元ごとに基本的な知識の定着を確認したい。 ○知識の定着とともに、知識を活用する力を養いたい。 ○既習事項を活用して、根拠に基づいて科学的に考える力を身に付けさせたい。 ○根拠に基づいた科学的な議論を行い、理科の見方・考え方を働かせて課題解決に向かう力を養いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な知識の定着を図るために、小テストや単元ごとのまとめのテスト等を実施する。 ○学び合い、教え合う活動を通して、知識の定着と知識を活用する学習活動を行う。 ○既習事項を活用する応用レベルの演習の時間を充実させる。 ○シンキングツールを用いた対話的な学習活動を行い、生徒が理科の見方・考え方を働かせて課題解決する授業を展開する。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ○英語らしい音で発話できるようにする。 ○語句が表す意味、文構造正しく理解させる。 ○4技能（聞く、話す、読む、書く）基礎力を伸ばせるように言語活動を行い、パフォーマンス・テストで定着を図る。 ○教科書本文の筆写、文構造の復習を中心に、家庭学習を日常的に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文構造や語彙の知識の習得に意欲を示す生徒が多い。 ○文構造や語彙の知識の定着が不十分な生徒も少なくない。 ○「話すこと」等音声に伴う活動は興味を示さなかったり、慣れていない生徒が多く、自ら英語を発話しようとするには消極的な傾向が見られる。 ○「読むこと」を翻訳作業と誤解する傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○語句、文の発音、音読の練習方法を工夫し、発話の機会を多く設定する。 ○文構造や語彙を整理し、基礎知識の定着と拡充を図る。 ○単元ごとにプレゼンテーション、やりとりの活動を行い、段階的にパフォーマンス・テストを実施する。 ○音声練習と英文筆写をさせる。まとまった英文を書く練習をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○語句の発音練習、音読は全体練習から個別練習（個々の発話）につなげる。 ○単元ごとに文構造や語彙の知識の整理、拡充する教材を提示する。 ○教科書本文の再生（リプロダクション）を行い、暗唱から言語活動へつなげる。 ○音読練習を徹底的に行い、パートごとに音読筆写の家庭学習課題を提示する。また、30語程度のまとまった英文を書く活動につなげる。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○リーダーを中心としたパート練習のさらなる充実を図り、曲にふさわしい表現を創意工夫し、グループ・ペア活動では全員が主体的に思いや意図をもって学習できるようにする。 ○表現「歌唱、器楽、創作」と鑑賞領域を関連付けて指導する。 ○合唱コンクールや卒業行事、授業内発表などで目標をもたせ、一人一人が達成感を得られるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌唱分野においては、全体的に意欲的に取り組み、二重唱や混声四部合唱の響きが確立されてきた。 ○鑑賞において、音楽鑑賞教室に関したオーケストラについての学習に興味関心をもって取り組んでいた。 ○音符や音楽記号などの知識理解、コードネームを使った創作などについては、できる生徒とそうでない生徒で差ができてしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発声や楽器の奏法、音楽理論の基本的な知識や技能のさらなる定着を図る。 ○自分の思いや意図をもって表現できるように音色や曲想について考えたり、話し合ったりする時間を増やす。 ○グループ学習（パート練習）やペア学習を通してリーダーを中心に、主体的に学習できるように指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽理論など難解な内容は、個別に指導したり、楽曲を演奏する過程において関連付けたりして理解させる。 ○話し合いがしやすい授業をするために、ICT機器を使用して視覚的に共有できるようにする。 ○合唱指導については、リーダーの養成を行い、パート練習が主体的に進められるようにする。また達成カードを使用し個人の理解度を把握する。器楽のグループ学習では、生徒同士の相互評価を行う。

教科	⑨ 基本方針・指導の在り方	⑩ 生徒の現状・指導上の課題分析	⑪ 授業改善の視点	⑫ 授業改善の具体策
美術	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人一人が制作を通して心豊かに美術とかかわり、美術を愛好する心情を育み、創造活動に関心をもたせる。 ○実技を通して、基礎的・基本的な空間構成の能力の定着を図る。 ○表現活動に重点を置き、より豊かな美術性を培うように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでに学んだ技術を生かしながら作品を作り、意欲をもって作業に取り組んでいる。 ○工夫しながら作業に取り組む生徒が多く個性豊かな作品が見られ、課題の方向性に従い、良い傾向が見受けられる。 ○技術はあるが、良いアイデアが浮かばず、なかなか作業が進まない生徒がいる。作業が早い生徒と差ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○参考作品を増やし、アイデアを出す機会を増やしていく。作品を客観的にみさせることで、作品の完成度の向上を図る。 ○空間的な作品を多くみせ、友人との意見交換や考える時間を設ける。 ○作業が進まない生徒には個別で参考作品から自分の作品に生かせる部分を取り上げさせ自分の作品に反映させるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品と「自分」の関係性を明確にするために自己評価や発表の機会を設ける。 ○一人一人の生徒への個別指導を増やし、手が止まっている生徒への声かけを行い、作業方法を助言する。 ○アクティブボードや印刷物による作品の紹介をより多くしていく。
保健体育男子	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の規律(集団行動)を徹底し、安全に配慮をする。 ○運動量を十分に確保し、体力・技能の向上を図る。 ○全体指導と併せて技能別での活動を取り入れ、個々に合った課題解決ができるよう指導していく。 ○グループ活動で自他の課題解決に向けて取り組み、技能向上できるよう指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの生徒が真面目に取り組んでいるが、苦手な単元に対して、消極的になる場面が見られる。 ○個々の運動技能の差が大きいです。 ○運動に関する知識が低い生徒がいる。 ○互いに助言し、学び合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時間、ランニングや補強運動を継続的に実施し、体力の向上を図る。 ○技能別指導で、全員に達成感を体得させることで、技能向上を図る。 ○視覚教材を活用して、知識の定着を図る。 ○グループ活動を多く取り入れ、主体的に学習できるよう指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元に応じて、授業の導入で、筋力・体幹トレーニング、柔軟運動などを実施する。 ○個々の技能にあった場を与え、それぞれの場を巡視等しながら指導を行う。 ○アクティブボードや学習カードを活用し、各技能のポイント等を説明する。 ○学習カードやタブレットを活用し、自他の課題を発見させ、解決のための練習方法などを考えさせる指導を行う。
保健体育女子	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な運動能力と体力の向上を目指し、個々の運動時間をより多く確保する。 ○個人の能力に合わせた助言や支援を行い、意欲的に活動させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な運動能力が身につけていない生徒と身についている生徒との差がはっきりしている。 ○運動が得意・不得意に関わらず、意欲をもって真面目に取り組む姿勢が多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各自の課題を認識させ、課題を達成するための活動内容を工夫する。 ○グループワークを通し、様々な生徒の共同学習を行い、互いに助け合いながら運動能力の向上を目指す。さらに、TTの活用も効率よく行い、支援できるような声掛けをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習ノートやカードを活用し、課題の発見と解決ができるように支援し、意欲を引き出していく。 ○単元ごとに技能テストを行い、個々の個人目標を明確にして達成感を味わせるとともに、TTでの話し合いを授業終了時ごとに行い、個別指導に活かしていく。

教科	⑨ 基本方針・指導の在り方	⑩ 生徒の現状・指導上の課題分析	⑪ 授業改善の視点	⑫ 授業改善の具体策
技 術 ・ 家 庭	<p><技術分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る。 ○プログラミングの実習では、協働学習の機会を設けて、主体的対話的な学習を進める。 <p><家庭分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ○実習や体験学習を通じて、基本的な知識や技術の確実な定着を図る。 ○保育実習を通して、習得した知識を活用し、幼児とのよりよい関わり方を考え工夫することで、思考力・判断力・表現力を養う。 	<p><技術分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「情報に関する技術」について、基礎知識がなかなか定着しない生徒がいる。 ○プログラムの制作に、意欲的に取り組む生徒が多い。 <p><家庭分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「幼児の生活」の分野では関心をもち授業に取り組む生徒が多い。 ○身近に幼児と触れ合う機会がないため、習得した知識を保育実習で活用できない生徒が少なくない。 	<p><技術分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「情報に関する技術」について、わかりやすい説明をする。 ○グループで課題に取り組み、支援し合うことを通して、自ら問題解決できる能力を身に着けさせる。 <p><家庭分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ○幼児への理解を深める課題を取り入れ、知識の定着を図る。 ○幼稚園を訪問し、幼児と触れ合う体験授業を行う。習得した知識を活かし、保育実習の場でそれぞれが課題を持って取り組めるように指導する。 	<p><技術分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ○実習に関する基礎知識を定着させるために、動画、ワークシート等を活用していく。 ○2人組、3人組、7人組等で取り組む課題のプログラムを制作、実行させていく。 <p><家庭分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ○アクティブボードの動画などを活用し、幼児の心身の特徴や生活の様子を理解させる。調べ学習や幼児のおもちゃの製作を通して、幼児への関心や理解を深めさせる。 ○幼稚園を訪問し、幼児と触れ合い、試行錯誤させる中で、幼児に合った接し方や遊びを工夫させ、思考力・判断力などを高める指導をする。